

関西学院大学 研究成果報告

2020年5月30日

関西学院大学 学長殿

所属：総合政策学部
職名：教授
氏名：李 政元

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 特別研究期間 <input type="checkbox"/> 自由研究期間 <input type="checkbox"/> 大学共同研究 <input type="checkbox"/> 個人特別研究費 <input type="checkbox"/> 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	介護・看護職者による攻撃性に関する研究：ケア場面における嫌悪事象とその耐性および対処行動について
研究実施場所	関西学院大学神戸三田キャンパス個人研究室ほか
研究期間	2019年 4月 1日 ～ 2020年 3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

研究課題「介護・看護職者による攻撃性に関する研究：ケア場面における嫌悪事象とその耐性および対処行動について」について以下の通り研究活動を行った。

（1）攻撃性と攻撃行動に関する理論及び先行研究の文献展望

暴力と攻撃行動に関する研究はそれなりの蓄積はあるものの、そのメカニズムは解明されているとは言えない。例えば、生物学は脳、ホルモン、遺伝子などに攻撃性の有力な要因を見出す一方で、個人差や群間差の説明はいまだ不十分である。攻撃行動の個人・集団への影響は計り知れないだけに攻撃行動に関心を寄せる学術分野は、生物学や心理学にとどまらず社会学や経済学といった社会科学にまで及ぶ。

文献展望からは、攻撃行動の強化については行動分析学、社会的学習理論、そして社会的交換理論が、攻撃行動の機能的側面については欲求不満-攻撃性仮説、社会的相互作用説が攻撃行動について有力な説明を与えることができると判明した。また、先行研究からは、介護・看護職者の攻撃行動を誘引する要因としては、個人特性（性別、若年、男女観、被虐待体験、薬物・アルコールの過剰摂取、低学歴）としての内的要因、職場特性（過重・長時間労働、サービス利用者の身体的・認知的特徴からくるケアの困難性、利用者の攻撃行動）としての外的要因が示された。

報告用紙②

- ◆ 研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。